

令和7度 学校経営方針

1 令和6年度重点事項の総括と今後の方向性

(1) 子供の学習改善を図る

小中学校共通の取組として、単元構想図と学びの振り返りによる「児童生徒が主役の授業づくり」に取り組んだ。市町村支援事業（下越指導主事訪問）を軸に据えながら、一人一実践の授業をとおりして一定の成果を得ることができた。7年度も「児童生徒が主役の授業づくり」を研究の柱に据え、今年度の実績をふまえ、児童生徒は学習改善に、教師は授業改善につなげていく。

そのためにも、研究推進委員会を中心に仮説・検証等のPDCAを短いスパンで回し、実効性を検証しながら、児童生徒が自らの成長を実感できる学習活動の推進を図っていく。

(2) 自己理解と他者理解の双方向を通じて自他の良さを理解し合うとともに、自己肯定感や自己有用感をもたせ、集団の中での自己存在感を高める

合意形成や意思決定の場面を意図的に設定したことで、対話活動が促進された。行事後の振り返りや他者を肯定的に表現する活動は双方向による評価となり、評価をとおりして自他の新たな面への気づきが自己理解や他者理解へとつながった。また、集団内における自分の役割などが評価されたことで、自己肯定感や自己有用感の萌芽にもつながった。

今後もよりよい集団づくりに向けて自他の良さを理解し、個性を発揮しながら、様々な他者とコミュニケーションを図り、協力し認め合う能力と態度の育成を図っていく。

(3) 基礎体力の向上を図る

体育の授業やのびのびタイムを中心に体力向上に向けた取組がなされ、児童生徒は楽しく、意欲的に運動に取り組んだ。また、通年で行ったラジオ体操（エクササイズ）や昼休みのスポーツなど、隙間時間を有効に活用した運動も体力向上に寄与した。

体育やのびのびタイムを中心に、継続的かつ意欲的に運動できる時間の確保や内容を工夫することで、児童生徒の一層の体力向上を図る。

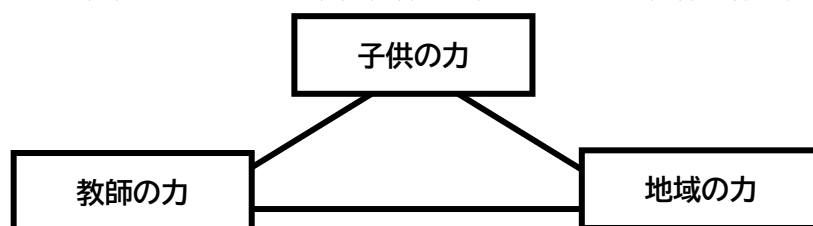
(4) 未来を切り拓く力や郷土愛の育成を図る

ヒト・モノや実社会とかかわり合う直接体験をとおりして、豊かな人間性や価値観の形成が図られた。また、地域資源や地域人材を活用することで、郷土の発展や未来について考え、実践する場が増えた。

専門家及び異世代や他地域の方々との交流並びに海洋教育を視点とする教科横断的な学びの推進をとおりして、郷土愛や海洋リテラシーの育成を図る。

2 学校教育の中核をなす3つの力

学校教育目標の実現を図るためには、以下の3つの力が必要である。この3つの力が結集し、相互に向上・発展させ、協働していけば、学校教育の充実が図られ、教育目標の実現に至る。



教師の力	子供の力	地域の力
・多様性（個別最適化や協働）のある授業力 ・人権感覚を兼ね備えた実践的指導力 ・教育の専門家としての確かな技量 ・子供理解力 ・コミュニケーション能力	・思考力・判断力・表現力 ・課題解決能力 ・人間関係づくり能力 ・社会適応能力 ・コミュニケーション能力 ・人間力	・地域力※① ・地域に根ざした教育力 ・地域ブランド力※② ※① 多様な主体が連携して身近な課題を解決し、地域の価値を高める力 ※② 地域の特産品や地域でつくられた加工品、観光名所などが持つ価値・評価

3 ミッション(社会的な使命・存在意義)

(1) 安全で安心な学校づくりを推進する。

- ア 個を見取る、集団を見取る生徒指導体制の充実
- イ いじめの未然防止、早期発見、即時対応に向けた取組の充実
- ウ 自らの命を守る意識を育てる防災教育の推進
- エ 学校教育施設・設備の充実

(2) 学校教育目標を達成する。

- ア 知・徳・体のバランスのとれた育成
- イ 困難に対し、他者と協力しながら問題解決を図ろうとする態度の育成
- ウ 義務教育終了段階での自立・自律を目指した指導

(3) 地域と学校の双方向の連携・協働による子供の学びと地域づくりを推進する。

- ア SDGsを視点とした、海と人の共生や地域創生の学び
- イ 地域の伝統・文化の継承による郷土愛の育成
- ウ 地域コミュニティの中核としての役割

4 ビジョン

(1) 目指す学校像「子供・保護者・教師の夢や希望にあふれる学校」

- ア 学ぶ楽しさや分かる喜び、心や体の成長が実感できる学校
- イ 保護者・地域から信頼され、地域とともに歩む学校
- ウ 教師が情熱と使命感をもち、教育活動を進める学校
- エ 教育環境が整い、安全・安心に生活できる学校

(2) 目指す子供像「何事にも主体的に取り組む子供」

- ア 育成すべき資質・能力を身に付けた子供
- イ 絆づくりを進め、豊かな人間性・社会性を身に付けた子供
- ウ 健康で安全に生活し、体力の向上に取り組む子供
- エ 海に囲まれた粟島を深く理解し、ふるさと粟島の未来を考える子供

(3) 目指す教職員像「率先垂範・凡事徹底・プラス α を目指す教職員」

- ア 主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導の充実を図る教職員
- イ 細やかに見とり、子供の心に寄り添い、共に活動する教職員
- ウ 保護者や地域と信頼関係で繋がり、地域の特色を理解して生かす教職員
- エ 子供の心身の健康づくりや居場所づくり、環境整備に努める教職員

5 学校教育目標

- ・自ら進んで学習する子ども (知)
- ・思いやりを持ち助け合う子ども (徳)
- ・めあてを持って体を鍛える子ども (体)

6 重点実践事項

知・徳・体・地域連携の重点事項をそれぞれ一つに絞り、成果を上げて全体に波及させる、「一点突破、全面展開」の考えで進める。

(1) 子供の学習改善を図る。

〈研究主題〉「自ら進んで学習する子どもを育成するための授業の在り方」として、授業改善を図るため
〈仮説〉教師が子供たちの実態を把握し、伸ばしたい力・その力が備わった後の姿を明確にして、その力を伸ばす手立てを講じた授業実践を行えば、自ら進んで学習する子供を育成できるだろう。

(2) 自己理解と他者理解の双方向を通じて自他の良さを理解し合うとともに、自己肯定感や自己有用感をもたせ、集団の中での自己存在感を高める。

小学校では「ほめあい活動」を、中学校では「学級における自主的な話し合い活動」や「哲学対話」等の取組をとおして、信頼関係を深める。また、TPOに基づいた効果的な「合意形成」の場面の設定をとおして、双方向による「聞くこと」「話すこと」の質的向上を図る。

(3) 基礎体力の向上を図る。

年間を通じた体づくりやラジオ体操、隙間時間等を有効活用した体力向上の取組を推進する。

(4) 未来を切り拓く力や郷土愛の育成を図る。

地域資源の活用や外部講師の招聘、施設訪問による学びの推進。

7 教師の基本的な姿勢「教育は信頼関係の上に成り立つ」

(1) 児童生徒一人一人を尊重し、個を伸ばす教育を実践する。

- ア 一人一人を大切にし、子供の心の揺れや心配事、不安に即時対応する。
→登下校時の見取り、教育相談・チャンス相談の実施、SC・SSW との連携。
- イ 「できるようになりたい」「分かるようになりたい」という子供の願いを大切にする。
→タブレット端末等、ICT 機器を活用した新たな学び、記憶を呼び起こすツールに位置付けたテスト、学習懇談等。
- ウ 生徒指導の実践上の視点（※生徒指導提要から）を生かした教育活動を行う。
→①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供
④安全・安心な風土の醸成

(2) 「率先垂範」を旨とし、教育公務員としての誇りと自覚をもつ。

- ア 時・場・目的に応じた行動をとり、子供の行動模範となる。
→授業の開始・終了時刻、下校等の時間を厳守する。
- イ 適切な言葉遣い、身だしなみ、人としてのマナー等に配慮する。
→来校者の出迎えと見送り、電話の応対等。
- ウ 法令を遵守し、非違行為は決して起こさない。
- エ 地域への積極的な参画。
→地域の一員であるという自覚、積極的に地域と関わろうとする意識。

(3) 全職員が協働の意識をもち、チームとなって組織的な対応をする。

- ア 「報・連・相」と「複数による確認」を徹底し、情報の共有化を図る。
→「抱え込まない」「悪い報告ほど早く行う」「互いに声を掛け合って確認する」。
- イ スピードが誠意である。チームによる迅速・適切な初期対応を心掛ける。
→生徒指導に関わることは週をまたがず、保護者への丁寧な説明を行う。
- ウ 教師一人一人が自らの専門性を発揮し、連携・分担して教育活動を行う。

(4) 環境の整備・美化・安全管理を徹底する。

- ア 日々の安全点検や清掃活動をととして、安心・安全な環境を心がける。
→転倒・落下の危険性予見、心を込めた清掃活動。
- イ 環境の変化に気を配り、維持や美化に努める。
- ウ 危機管理マニュアルの見直し・改善を図り、周知徹底を図る。
→生命尊重を第一とした危機管理の徹底。
- エ 新潟県防災教育プログラムを活用した防災教育の推進
→校内避難訓練や村防災訓練とのタイアップ。

(5) 「集中と選択」を実践し、自らの働き方を見直す。

- ア 「子供のための活動」となっているかを考え、整理・統合・削減する。
- イ 「現状維持は衰退」。新しいアイデアを考えて、積極的に取り組む。
→いじめや命に関わることでなければ、担当者判断での挑戦もあり。
- ウ 時間外勤務一月 45 時間以内、一年 360 時間以内を目指す。また、年休一年 15 日以上を取得を図る。

8 令和7年度目標

「10%の改革 70%の手応え 100%の自信」で挑む教職員集団